

自然気胸と多汗症

近年の手術法の進歩によって、小さな切開創で内視鏡を使った手術が広く行われるようになってきました。当院でも装置を導入して内視鏡手術を行ってきました。特に胸部の手術、自然気胸、多汗症の手術に新しい試みをしていますのでご紹介します。

最近の社会情勢から、給食、休学の期間をいかに短期間にして、早期に社会復帰できるか、が重要になってきました。このような観点から短期入院、早期手術を行っています。

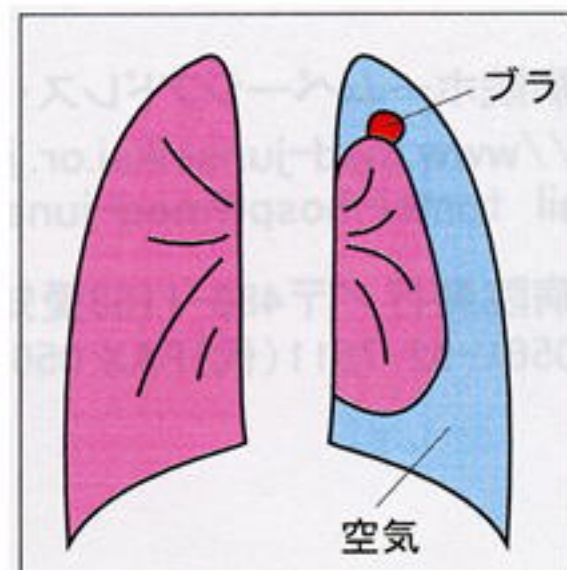


図1：左側の自然気胸

自然気胸

多くは青年期の方で、突然の胸痛と呼吸困難で発症します。肺の一部が風船のように膨らんで（ブラ）、先端が敗れ空気が胸腔の中にもれ肺を圧迫して呼吸ができにくくなり、呼吸困難が生じます。まれには空気のもれがひどいと緊張性気胸といって、命にかかわることもあります（図1）。

胸腔鏡下手術では、全身麻酔下に、このふくらんだ部分（ブラ）を切除します。使用する器具は、直径10mmと2mmの内視鏡、切除するための直径10mmのステプラーです（図2）。このため皮膚の切開創は、これらの3ヶ所ですみます。



図2

手術操作

胸腔内観察

ブラ切除

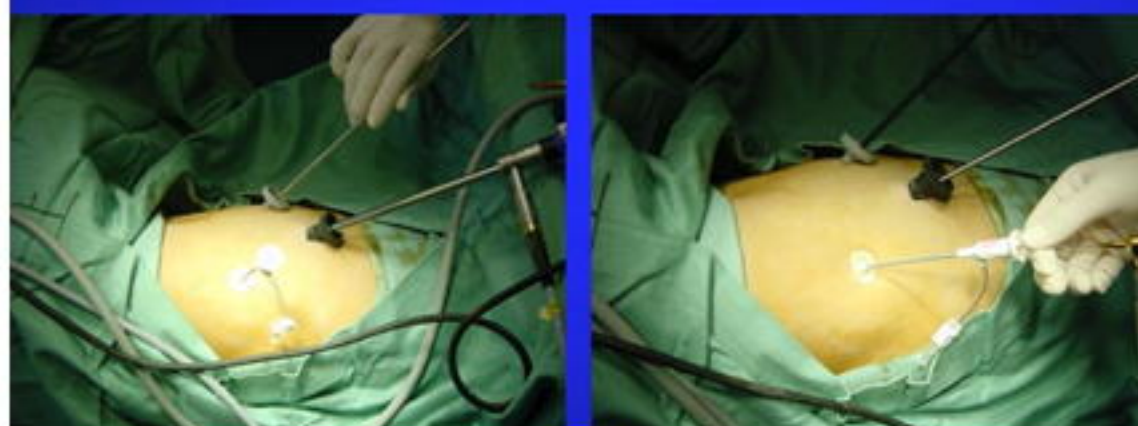


図3

多汗症

多汗症は手の両手の病気ですが、通常は片方ずつ手術をしています。2mmの内視鏡を1本挿入するのみで手術が可能です。そのため手術の跡は全く判らなくなります。発汗に関係する交感神経の一部を切断します。完全に切断すると体の部分の発汗がかえって増加する、代償性発汗が起こることがあり、当院では最小限の切断によって効果が出るように工夫しています。

以上のような手術を昨年から行っていますが、今までに自然気胸の方の手術を31名、多汗症の手術を3名に行いました。手術時間の平均は36分でした。最初の1名の他は、術前の入院期間も短く手術の当日に入院された方もあります。手術後は、その日のうちに経口摂取、トイレ歩行が可能です。殆どの方は、手術の翌日に退院されています(図5)。



図4

入院日数

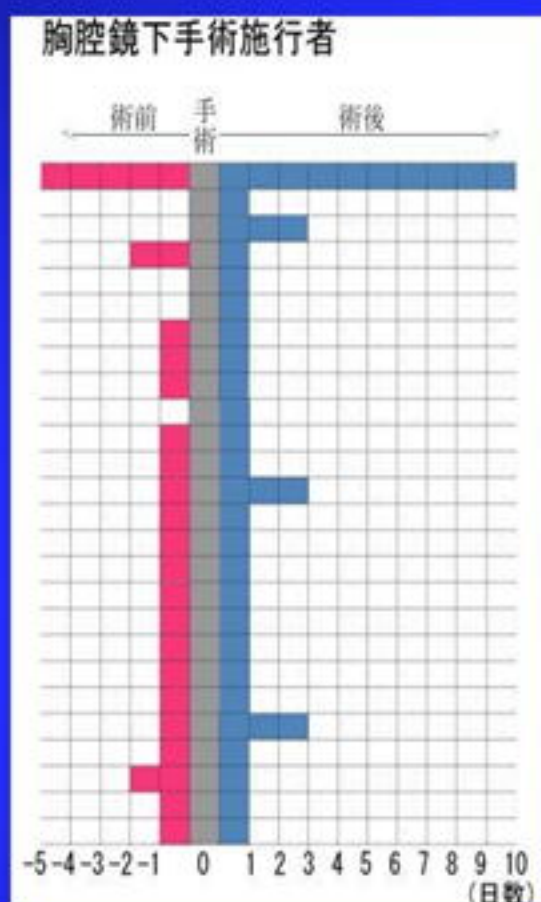


図5

自然気胸、多汗症にたいして、このような工夫をして、早期手術、早期社会復帰を行っています。いつでもご相談下さい。

